

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
山辺地区(第2期)

平成31年4月

山形県山辺町

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	観光客数	人/年	204,500	240,000	213,000	確定	△	あり	211,000	H31年4月	△	<ul style="list-style-type: none"> ■ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる 	新たな観光資源となる大門東部多目的広場及び観光振興の拠点となる観光交流センターの整備ができなかったこと、また、駅前広場も町単独事業による一部の整備となり本広場において実施予定だったイベントやレンタサイクル社会実験もできなかったため、これまでの推移から想定された以上の数として設定した数値目標を達成することができなかった。
指標2	観光案内所(窓口)利用者数	人/年	949	1,600	— (計測不可)	確定	—	あり		H 年月		<ul style="list-style-type: none"> □ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる 	本体となる観光交流センターに合わせ、計測対象となる観光案内所も整備できなかった。
指標3	空き店舗数	店	14	11	12	確定	△	あり		H 年月		<ul style="list-style-type: none"> □ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる 	目標は達成できなかったが、空き店舗数は従前値よりも減少している。駅前駐車場を商店街利用者の利用も可能としたことで実際の利用もみられ、間接的に寄与したと思われる。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	駅前大通りの路上駐車台数	台	15	5	確定	/	/	/		H 年月	/	<ul style="list-style-type: none"> □ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる 	路上駐車ほとんどは駅利用者を送迎する自家用車によるものだが、最も路上駐車が多い夕方から夜の時間帯でも、多くの車が駅前駐車場を利用していた結果、駅前大通りの路上駐車が減少した。
その他の数値指標2					確定	/	/	/		H 年月	/	<ul style="list-style-type: none"> □ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる 	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために行う方策	駅前大通りの路上駐車車の解消	整備後1年を経過した時期に、路上駐車車の状況を確認し、路上駐車車が特に多くなる夕方から夜の時間帯に、駅利用者を迎えに来る車の待機時間中、駅前駐車場に駐車するよう誘導する予定である。	未実施	路上駐車車の状況を確認したうえで今年度実施予定
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	観光交流センターの整備	あり方を含めた検討の上、その時点における町の観光振興策に即した観光交流センターを整備する予定である。	未実施	周辺都市の状況などを踏まえ、ニーズに合わせた既存資源の活用、ソフト施策の充実、これらの連携した観光交流センターのあり方など、これらの町の観光施策を明確にする必要がある。
	駐車場と商店街のつながり強化	駅前駐車場を利用した商店街への来客増を図るため、駅前駐車場が利用可能であることを住民に広く周知するために、町のホームページ等で再度周知する予定である。	未実施	今年度実施予定
	駅前広場等羽前山辺駅周辺環境の整備	駐輪スペースでない場所に駐輪する方が多く、新たな駐輪スペースの確保と駐輪禁止スペースに「駐輪禁止」看板の設置を行った。	違法駐輪がなくなり、新たに確保した駐輪スペースに駐輪するようになった。	さらなる安全かつ魅力的な空間となるよう、状況を踏まえながら、駅前広場の未整備部分(歩車分離の確立)について再度検討する必要がある。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

都市再生整備計画(清算報告)
山辺地区(第2期)

山形県 山辺町

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>■整備方針1【魅力・回遊性・利便性の向上など観光に配慮した環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多くの人々が利用しているふるさと交流センター「あがらっしゃい」や須川河川敷のレクリエーション機能などを充実させる。 ○観光に関する総合的な情報発信のほか、伝統産業である繊維製品の販売・PRなどにも寄与する観光交流センターを町の顔となる駅前に整備する。 ○観光客の移動に配慮した環境を充実させる。 ○街なか観光支援を実施する団体への支援を行う。 ○回遊性を高める魅力的な観光マップを作成する。 ○JR羽前山辺駅東西の資源を活かしたイベントを開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設(基幹事業:大門東部多目的広場整備事業) ・地域生活基盤施設(基幹事業:大門東部多目的広場駐車場整備事業) ・地域生活基盤施設(基幹事業:駅前広場整備事業) ・地域生活基盤施設(基幹事業:駅前駐輪場整備事業) ・地域生活基盤施設(基幹事業:駅前駐車場整備事業) ・高次都市施設(基幹事業:観光交流センター整備事業) ・地域創造支援事業(提案事業:羽前山辺駅改築事業) ・まちづくり活動推進事業(提案事業:レンタサイクル社会実験) ・まちづくり活動推進事業(提案事業:まち歩きマップ作成助成事業) ・まちづくり活動推進事業(提案事業:ニットイベント開催支援事業)
<p>■整備方針2【訪れやすく買い物しやすい商業地としての環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地区外からの買い物客や観光客も商店街を訪れやすい環境を整備する。 ○都市計画街路事業に基づき現県道の拡幅を行い道路の利便性向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設(基幹事業:駅前広場整備事業) ・地域生活基盤施設(基幹事業:駅前駐輪場整備事業) ・地域生活基盤施設(基幹事業:駅前駐車場整備事業) ・地域創造支援事業(提案事業:羽前山辺駅改築事業) ・都市計画街路事業(関連事業:3・4・303号城南大通り線道路改築事業)
<p>■整備方針3【住民などがまちづくりに取り組むことができる環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○イベント等まちづくり活動の場となり、まちづくりに取り組む住民等の健康増進・体力向上にも寄与する広場を整備する。 ○地区住民・事業者が主体となったまちづくり活動等に対する支援を行う。 ○各種の事業を円滑に進め、目標に向かって確実な効果をあげるために、事業効果分析を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設(基幹事業:大門東部多目的広場整備事業) ・地域生活基盤施設(基幹事業:大門東部多目的広場駐車場整備事業) ・地域生活基盤施設(基幹事業:駅前広場整備事業) ・事業活用調査(提案事業:事業効果分析) ・まちづくり活動推進事業(提案事業:ニットイベント開催支援事業)

その他

○山辺の歴史・文化

山辺町の歴史は古く、840年ごろに出羽郡司だった小野良実が山野辺城を築いたとされており、小野良実は小野小町の父親とされる人物で、山辺町には小町手植えとされる愛宕神社の大杉や小町が産湯に使った泉が残されている。奈良時代にはすでに条里制が取られ早くから開けてきた地域で、1356年には全国66か寺建立された安国寺の一つがある。最上舟運が盛んだった町で紅花などを扱い豪商となる商人も現れ、山間部で「からむし」を栽培し織物として上方まで運ばれていた。当時をしのばせる稚しの雛街道があり、昔の雛人形を飾る。

山辺町は森と湖沼の町と言われるように県民の森に13の湖沼があるなど、自然豊かで山間部にはまんだらの里の作谷沢や「日本の棚田百選」に選ばれた大蔵地区の棚田、室町時代に造られ山形県内最古のため池で、玉虫姫伝説が残る玉虫沼のほか、NHK大河ドラマ「天地人」でも取り上げられ、最上軍と上杉軍の最初の激戦地、直江兼統率いる上杉勢約2万の大軍を迎え撃った畑谷城址がある。また、山辺町から眺める山形市の夜景は「星降る道」として有名である。

一方、町の基幹産業で発展を支えてきたニットなどの繊維産業は衰退傾向となっているが、洋風な建物で趣のある手織緞通(絨毯)で有名なオリエンタルカーペット社のほか、全国的に珍しい400mほどしか離れていない山野辺城址と高橋城址、江戸後期に建てられ建築学的にも重要な旧山野辺陣屋玄関、常設国際司法裁判所所長を努めた安達峰一郎生家、歴史・文化の発信地となっているふるさと資料館などがある。

また、多くの社寺があり、天満神社、諏訪神社、愛宕神社の三社祭りで行われる稚児行列は有名である。

城下町ということもあり、道路が三又路や喰い違いとなっており、安易に直進できない工夫がなされている。また、坂道や石垣も多く残されている。このような道と歴史的建物がそのまま残されているのが、まちなかの大きな特徴となっている。

山辺の特産品としては、手織絨毯やファッションニットの他、品質の高いさくらんぼや山辺の湧水で育ったわさび、古くから伝えられてきた鯉料理などがある。

○まちづくり活動

山辺町ではまちづくり活動がようやく根付いてきたところであり、その一つに平成20年に発足したYOUBASE会の活動がある。

発足は平成20年となっているが、活動については平成17年より始めており、東北芸術工科大学との連携などから、まち歩きや学生との意見交換会、勉強会などを開催し、このような活動が実を結ぶ形で発足にいたっている。この会は、まちなかを元気にしようと計画づくりだけでなく実践活動も行っており、これまで、まちなか再生の計画づくりを柱に、実践活動として住民から要望が強かった駅前通路の照明を検討し、現在1基の設置を行っている。また、まちづくり事例の視察も積極的に行い、意見交換やまちづくりに関しての勉強も行っており、平成24年度には駅前の空き店舗を利用したイベント「よらっしゃい亭」を地元の山辺高校との協働で開催している。

このように町と一緒に勉強会や視察、実践活動などを行う中で、まちなか再生を様々な事業制度などとの組み合わせで実現することを考え、連携した取り組みを展開してきている。

○公有地の既存ストック活用検討については、「山辺町公有地利用基本方針【平成26年度制定】の基本方針に基づき遊休財産の計画的な処分・歳入確保を検討・実施しておりますが、現在の羽前山辺駅周辺の正面に損壊したままの住居が目前に鎮座し、景観を著しく損ねております。この私有地を公有地として購入し活用することにより、駅周辺を集客を目指す市街地への玄関口(ゲートウェイ)として諸施設の整備と併せて駅近傍の空間構成を作り替えることが出来ることから、公有地の有効活用が望めます。

